



自治行政局地域自立応援課
人材力活性化・連携交流係長

小沼 翔
ONUMA AKIRA

平成 19年 10月 総務省採用
消防庁消防大学校
平成 20年 10月 自治税務局固定資産税課
平成 21年 4月 秋田県総務企画部市町村課
平成 22年 4月 同 企画振興部市町村課
平成 23年 4月 総務省消防庁総務課
平成 25年 4月 自治税務局企画課総務室
平成 25年 10月 自治税務局企画課総務室総務係長
平成 26年 4月 自治税務局固定資産税課資産評価室家屋第二係長
平成 28年 4月 大臣官房政策評価広報課情報公開渉外第二係長
平成 30年 4月 現 職

あなたの力で地方を元気にしませんか！

地方に新しい活力をもたらす協力隊

みなさん、地域おこし協力隊を知っていますか？ニュースや新聞で聞いたことがあるのではないのでしょうか。現在、全国津々浦々で隊員が活躍されているので、もしかしたら、すでに隊員にお会いしているかもしれませんね。簡単に説明しますと、地域おこし協力隊とは、都市から過疎地域などに移り住み、1年から3年の間、地域活性化に向けた活動をしてもらう取組です。協力隊の活動内容はさまざま、海女さんの後継者になられた方もいますし、農業の担い手になられた方や地域ブランドの開発をされている方もいます。

平成30年度の活動隊員数は、5,500人を超えており、都市から地方へ新しいヒトの流れを作っています。まさに地方創生の目玉施策です。総務省は、隊員の活動が円滑に行われるよう、受入れ・サポート体制の強化や地域に定住・定着して地域の担い手として活躍してもらえるよう、様々な支援を行っています。

第2のふるさを見つめませんか

総務省の魅力といえば、若い時期に現場である地方を経験することができることです。ちなみに、私は入省2年目で秋田県に向向しました。また、地方の現場を肌で感じ、そこで得た経験や思いを国の政策に反映できるところです。最初にちょっと堅いことを書きましたが、地方赴任は、仕事以外のプライベートも大きな魅力です。週末になると、当時の仲間と一緒に県内各地のお祭りに参加し、秋田のおゆっこ（温泉）を楽しみました。今でも目を閉じると、県内各地の美しい景色や出会った方々の笑顔を思い出します。総務省職員は、この「第2のふるさと」をみんな持っています。それぞれの笑顔、大好きなふるさとへの思いを胸に抱いて、日々の仕事に打ち込んでいます。

最後に、地方自治の現場を経験することで自分を大きく成長させることのできる魅力的な職場だと思います。地方を元気にしたいと思う方は、ぜひ一度、足を運んでみてください。

Private Time

平日は家族とあまり過ごせないのが、週末になると家族みんなで近くの公園で遊んだり、外出しています。一人で登れなかったジャングルジムを、いつのまにか一人でスイスイ登る我が子の姿を見て、子供の成長の早さに驚かされています。また、毎年夏には、職場の仲間とアルプス登山に行っています。大自然の中で飲むコーヒーは格別です。



Q 今までで一番印象に残った仕事は何ですか？

A 東日本大震災後の4月に、秋田県庁から消防庁に異動しました。異動直後も大きな余震が頻りに発生していたため、連日連夜、危機管理センターに参集し、災害対応にあたっていました。錯綜した状況下の中、正しい情報を迅速に届けることがとても難しかったです。また、刻々と変わる災害現場で、「今自分にできることは何か」と常に自問自答しながら、復旧・復興のために全力で取り組んだことです。

Q 10年後はどのような仕事をしたいですか？

A 執筆にあたって、官庁訪問時に作成したノートを久しぶりに読み直しました。そこには、「地方を元気にしたい」という入省当時の自分の気持ちが書いてありました。私は、今年で入省12年目になります。振り返ると嬉しかったことや悩んだり迷うことなど多々ありましたが、10年後も初心を忘れずにより高い志を胸に抱き、大好きな地方（ふるさと）やそこに住んでいる方に思いを馳せながら、仕事がしたいです。